

学校だより

挨拶（あいさつ）から思うこと

年が明け、初めての補習校の授業が始まりました。昨年までと変わらず、親子（保護者と子ども）と私で「おはようございます。」と挨拶を交わします。中には、子どもたちが声を振り絞りながら「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」と、お正月定番の挨拶ですが、頭を下げてくれます。親は子どもが小さなときから、“子どもに時候の挨拶をきちんと教えているのだなあ。”と感心しました。それとともに、頭を下げるという動作から、挨拶とは動作も伴うものであるという、当たり前前のことを子どもたちから気づかせてもらいました。



校舎南側の駐車場から校舎入り口までに、何家族かは、「校長先生や担任の先生に、きちんと挨拶をするんですよ！」との親子の会話があったかもしれません。こうした会話がある家庭は、子どもに「きちんと言えたね。」「目を見て言えたね。」「元気があって良かったよ。」の一言もあったことだろうと思われれます。これは、機会を逃さず、その時に教えるべきことをきちんと教え込ませる、まさにチャンス教育です。そして、その評価もきちんと伝えることが良い習慣に結びついていくものだと思っております。

子どもに、時や場に適したあいさつができるように教えることは、育てる親の役目であり躰と言われるものであります。

子どもの反抗期と言われる第二次性徴を迎えるころに、「きちんと挨拶しなさいよ。」と言っても、「わかってるわよ！」とか「いちいちうるさいぞ！」と反抗的な返事が返ってきたり、「・・・」返事さえも返ってこなかったりする家庭があるかもしれません。

挨拶から躰に話が発展しています。これまでに関わった児童生徒たちやわが子の子育ての拙い（つた

ない）経験からですが、子育て中には、挨拶や身なり、言葉遣いや態度などの礼儀や作法について、子どもに“厳しく言える時期”〔幼少期〕と“少し様子を見てからでないと言えない時期”“2回の注意を1回にしておこうかと様子を見てしまう時期”〔子どもの自我が芽生え始めた時期〕があるように思います。（子どもが一般常識を知らなかったり理解していなかったりする場合は、年齢に関係なく親として子どもに教えなければいけません。）

特に、子どもの自我が芽生えた時期には、親は躰と思って言ったことでも、子どもにとっては注意としかとらえられない場合や怒られたととらえる場合があります。結果、親は教えたり叱ったりしたつもりであっても、子どもは親の思いを理解できず、親子関係を損（そこ）ねてしまうことさえあるので、親でありながら子どもに気を遣ってしまいます。

子どもの心身の発達段階に応じた躰がありますが、挨拶は、子どもが小さな時から機会をとらえて繰り返し教えること、そして親が良いお手本を示すことが大切だと改めて感じました。

補習校の先生は国語や算数・数学などの教科指導だけではなく、活動全体の中で機会をとらえて道徳に関する徳目も教え、家庭教育の後押しをしています。

ところで、お正月と言ってもヒューストンにはなかなかその雰囲気味わえず、「早いもので松の内も空けて・・・」「鏡開きもすんで・・・」などの時候の言葉や挨拶を忘れてしまいそうになります。10日、中学部は書き初めをしました。保護者のボランティアによって、昨年よりも生徒がより多くの枚数を書ける時間が確保できました。今週は餅つき大会があり、たくさんの方々の協力によって行事が開催できます。

子どもたちには、書き初めや餅つき大会の行事を通して、日本のお正月気分を味わうとともに、たくさんの方々のボランティアの方々へ、言葉と態度で感謝の気持ちを伝えて欲しいと思います。



渡米して間もない小学校高学年の児童は、必ず読んでほしいと思います。また、低学年のお子様を持つ保護者の方は、声に出して読んであげてください。

第29回海外子女文芸作品コンクール 作文部門 佳作

アメリカのぶあつくて高いかべ

小学部5年 A組 高野 沙織

「アメリカって、どんな所だろう。」私はそのことで、いっぱいだった。飛行機の中でも、だれの声も耳に入らなかった。

アメリカの空港では、未来の世界のようだった。子どもでも、小さなピアスをしていて金ぱつのカールのかみの毛。日本では、ありえない風景ばかり目に入ってくる。しかし、そんな楽しい時間は、あっというまに過ぎていった。荷物整理やごはんを食べに行ったりして、くたくたの一日だった。

その週の土曜日、私は、初めて補習校に行った。教室に行くと、先生が出むかえてくれて、ほかの子が「えっ！何？転校生？」と言ってさわいでいた。

泣きそうになりながら教室にはいると、みんなが集まってきて「おはよう。」と言ってくれたときは、うれしかった。びっくりしたことに、言葉が少しちがう事だった。みんな「だよ。」っと文章の最後に言うのに、私が住んでいた所では、文章の最後に「やで。」とつけていたので話しづらかった。でも、とっても楽しい一日だった。

そして、とうとう現地校へ行く日が来た。しんぞうがドキドキした。みんな英語をしゃべっていて、さっぱりわからなかった。その学校は、日本人が一人もいなかった。現地校は、日本とちがうところがおもしろかった。国語と社会の先生は、おもしろくて、本を読むとき、人の話すところだけ、声をかえたりして、みんなで大笑いしていた。アメリカ人は、おしゃべりなので、ランチのときは、スタッフの人もこまっていた。

それから一年がすぎ、まだ、英語のかべをやぶれない。今は少しその、ぶあつい高いかべに少しひびが入っただけだった。今、やっと友だちや先生と、簡単な会話ができるだけだった。ほかの子は、私のとなりで、かべをつきやぶり、次のかべをつきやぶろうとしている。私もいつか、あの、ぶあつい高いかべを、思いっきり、つきやぶりたい。



恒例の年賀状展と硬筆展を17日、24日、31日の3日間、開催します。17日はカフェテリアに、24日、31日は校舎南側出入り口近くの壁に掲示しています。



アイディアいっぱいの年賀状を毎年たくさんの方が出してくれます。今年の干支（えと）は丑（うし）、干支の絵柄を入れながら、

工夫をしたあとがたくさん見られました。私たちの生活と密接な関係にある牛ですが、子どもたちは、何を想像しながら牛の絵を描いていたのでしょうか。ステーキ？ロデオ？牛乳？・・・

24日に年賀状展と硬筆展の優秀作品受賞者の表彰を行います。受賞者氏名は来週号に掲載します。

◆パトロール当番予定表 1月24日◆

～よろしくお願いします～

| | 学年 | 順位 | 児童生徒氏名 |
|----------|----|----|------------|
| ★AM1リーダー | 小5 | 23 | 藤井 恵 |
| 2 | | 25 | 東 和秀 |
| 3 | | 26 | 小野 渚 |
| 4 | | 27 | 高橋 帆乃華 |
| 5 | | 28 | 藤縄 郁花 |
| 6 | | 29 | 森 日向子 |
| 7 | | 30 | フィッシャー さくら |
| ★PM1リーダー | 小5 | 31 | 高橋 滯音 |
| 2 | | 32 | 宇野 航平 |
| 3 | | 33 | 岡部 忠朗 |
| 4 | | 35 | 石井 健介 |
| 5 | | 37 | 島崎 萌南 |
| 6 | 小6 | 1 | 高橋 彩音 |
| 7 | | 2 | 酒井 牧子 |

<転入>

馬込 悠君（幼月） 嶋田 蓮君（幼星）
橋本 輝君（小2B） 三輪直暉君（小1B）
三宅恒史君（中2） 三輪岳誠君（高1）
三宅星良さん（高1）

新しい仲間です。ようこそ、補習校へ。一緒に勉強していきましょう。どうぞよろしくお願いします。